



MMWIN[®]みんなのみやぎネット[®]

より効率的で、質の高い医療・介護サービス提供のために
Vol. 111

令和5年度 第1回みやぎ脳卒中地域連携パス会議報告

昨年度は、脳卒中地域連携パスの運用フロー見直しと、みやぎ脳卒中地域連携パスシステムの機能改修を実施いたしました（詳細は2023年4月号をご参照下さい）。今年度は、上記パスシステムにより仙台圏から運用を開始しており、パスの適用件数を重ねるにつれ、その実態が明らかになってまいりました。

12月7日のオンライン会議では、システム改修後として初回の開催となることから、ワーキングコアメンバーである仙台リハビリテーション病院院長 渡邊 裕志先生より、回復期病棟の立場として運用によって得られた経験や工夫など、これからパスを始める病院の参考になればとご講演いただきました。

MMWINを利用した脳卒中パスの活用（渡邊先生のご講演内容から抜粋）

仙台リハビリテーション病院でのMMWIN利用の転院患者数は、2023年5月から11月時点での入院が15名あり、そのうち退院が9名ありました。当院では、急性期病棟から転院依頼があった当日の夕方に、転入院受入に関する病床会議を開催します。その会議において、MMWIN上から診療情報提供書や転院申込書情報を取得し、関係者間で参照しています。これらの帳票類のほか、MMWINには症例画像情報や検査値情報も公開されており、受入の判断に際して必要な情報を、当院側で適宜取得できることが大きなメリットの1つとして挙げられます。

今後の課題としては、当院から生活期への情報連携が挙げられます。パスシステムを利用するためには、当然ながらMMWINの参加施設である必要がありますが、参加されていない生活期施設も多く、よりMMWINに参加しやすい環境整備を要望しています。

会議後のアンケートより

参加者は32施設83名の参加となりました。参加者の職種は、医師、看護師、相談員、セラピスト、放射線技師、院内SEと幅広い関係者の皆様にご参加いただきました。



転院患者受入会議の様子



MMWINで申込症例を確認

参加者からのアンケートについて、いくつか紹介させていただきます。

- ・連携パスのつながりが、一目で見える仕組みと感じた
(急性期 MSW)
- ・以前よりも入力方法が簡素化されており、メリットも大きいと実感しました
(急性期 MSW)
- ・数力所申込む際のメリットも大きいと改めて実感しました
(急性期 MSW)
- ・連携パスで、実際に情報共有を行った双方の話が聞きたい
(回復期作業療法士)
- ・実際に使用されている病院から、より詳しい話を聞いてみたい
(回復期作業療法士)
- ・電子カルテに相乗りできない状況では、負担だけがが増えてしまう
(急性期 MSW)

渡邊先生は、地域包括支援センターを中心とした生活圏域の中にある施設と連携を進められております。MMWIN事務局では、生活期への連携を広げていくために、地域会議等への参加を通して利用施設の拡大を目指してまいります。

お問合せ先：

一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

Miyagi Medical and Welfare Information Network (MMWIN)

【住所】仙台市青葉区一番町1-15-19 【WEB】<http://www.mmwin.or.jp>

【TEL】022-395-6312 【FAX】022-395-6313 【E-mail】office@mmwin.or.jp



『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。